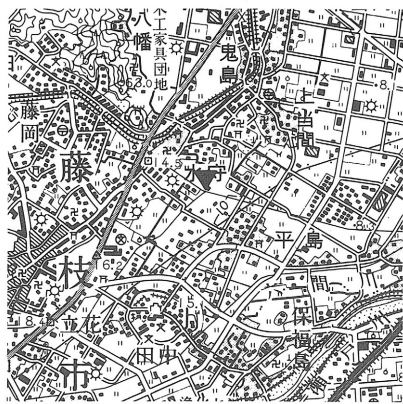


静岡・水守遺跡

みずもり

- 1 所在地 静岡県藤枝市水守
- 2 調査期間 一九九五年(平7)一〇月～二〇〇〇年九月
- 3 発掘機関 藤枝市教育委員会
- 4 調査担当者 八木勝行・鈴木隆夫・磯部武男・池田将男・岩木智絵
- 5 遺跡の種類 官衙関連および集落跡
- 6 遺跡の年代 五世紀～一〇世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(静岡)

水守遺跡は藤枝市内の東部、葉梨川と瀬戸川によって形成された沖積微高地上にある大規模な集落跡で、土地区画整理事業に伴う調査を一九九六年から実施している。遺構は、五〇〇mほど離れた二地点(水守Ⅰ・Ⅱ遺跡)にまとまって分布している。遺跡の南側には益頭郡衙の所在地と推定される郡遺跡が

隣接する。

水守Ⅰ遺跡は古墳時代及び奈良・平安時代の集落遺跡で、調査地の東側で古墳時代の竪穴式住居・掘立柱建物・河・溝などが検出され、河跡からは、祭祀遺物と大量の土師器などが出土している。一方、西側の区域を中心に、奈良時代後半～平安時代前半の二七棟の掘立柱建物群が、およそ四〇m×六〇mの範囲にまとまって発見されている。全体的に土器等の遺物は少ないが、墨書土器〔「益少領」を含む〕・石帯などが出土している。

水守Ⅱ遺跡は奈良～平安時代の官衙関連の集落跡で、五〇基の井戸遺構、掘立柱建物群に伴う遺構や、区画する溝状遺構が検出されている。特に遺跡の中心部とみられる一画では、溝で区画されたおよそ六〇m×七〇mの範囲に、方向性と規格性をもった掘立柱建物群（倉庫群か？）が集中し、柱穴の重複の状況から平安時代中期を中心に数回の建て替えが認められる。土器類、礎板・柱根、祭祀遺物などのほか、墨書土器・銅製帯金具（巡方）・円面硯・板絵馬などが出土している。奈良時代を中心とした郡遺跡よりも年代はやや下がるが、益頭郡衙跡と関連する遺構群と考えられ、注目される遺跡である。

木簡は水守Ⅰ遺跡から三点が出土している。木簡(1)(2)は溝状になつた奈良時代末期の低地から、木簡(3)は掘立柱建物（S B一五）の柱穴の埋土から出土した。このS B一五は、約四m×五m、二間×

四間の建物である。

8 木簡の釈文・内容

奈良時代自然堆積層

(1) 自今日□□□□□□□□□□
 □□□□□
 □□□□□
 □□□□□

〔態仕カ〕

奉移之□

(281)×24×5 011

(2) □□□□□□□□□□

73×10×1.5 032

掘立柱建物S B一五柱穴

(3) □□□□□□□□□□

(239)×(32)×5 059

(1)は二次的に四片に切り折りされた文書風の木簡であるが、墨痕は明瞭でなく、文意はとらえられない。

(2)は上部に切り込みを持つ小型の付札で完形だが、物品名は読みとれない。

(3)は下端を尖らせた申状の木簡で、表面に一二字分ほどの墨痕が認められる。建物柱穴底から検出されており、呪符（地鎮）ともみられるが、内容は不明である。

9 関係文献

藤枝市教育委員会『藤枝市文化財年報』平成八年度・九年度・一〇年度（一九九八年・一九九九年・二〇〇〇年）（八木勝行・岩木智絵）